

2 事業概要

(1) 総括事項

本年度は、給水戸数は微増したものの、給水人口そして、料金収入となる年間有収水量は、前年度よりも微減しました。

経常的な事業収入では、料金収入は減少したものの、給水申込納付金は増加となりました。料金収入の減少要因は、少子高齢化やライフスタイルの変化、節水型製品の普及等が考えられます。事業支出では、主に減価償却費や修繕費が増加しましたが、動力費や薬品費等の削減に努め、事業収支については純利益となりました。

施設改良費については、水道施設整備を推進するため、配水管の布設替等工事、幸田配水場P C配水池耐震補強等工事他を実施しました。

(2) 業務の状況

本年度の年間給水量は 7,701,187^mで、前年度に比べ 25,305^mの減少となりました。

有収水量は 7,236,876^mで、前年度に比べ 20,415^mの減少となり、有収率につきましては、前年度に比べ0.04ポイント増の93.97%となりました。

また、北千葉広域水道企業団からの受水量は 4,352,088^mで、総給水量に占める割合は 56.51%となりました。

事 項	平成29年度	平成28年度	前年度との差
給水戸数(戸)	39,301	39,143	158
給水人口(人)	78,821	79,133	△312
年間給水量(m ³)	7,701,187	7,726,492	△25,305
1日最大給水量(m ³)	24,103	24,378	△275
有収水量(m ³)	7,236,876	7,257,291	△20,415
有収率(%)	93.97	93.93	0.04
北千葉広域水道企業団からの受水量(m ³) (給水量に占める割合%)	4,352,088 (56.51)	3,871,834 (50.11)	480,254 (6.40)

(3) 経理の状況

収益的収支については、事業収益 1,587,828,347円に対し、事業費用が 1,479,329,779円で差引き 108,498,568円の純利益となりました。

収支の内訳は、事業収益では、営業収益 1,273,947,213円、営業外収益 313,881,134円で、主なものとしては、給水収益 1,174,587,389円、長期前受金戻入 202,748,485円などです。

事業費用では、営業費用 1,405,027,776円、営業外費用 74,302,003円で、主なものとしては、減価償却費 550,493,572円、受水費 336,871,380円、企業債支払利息 73,850,762円などとなっています。

資本的収支については、収入額 128,188,892円に対し、支出額は、561,123,100円となり、収入額の内訳は、企業債 56,000,000円、出資金 21,100,000円、県補助金 20,350,000円、工事負担金2,386,692円、 他会計負担金 19,048,000円、水源費負担金 9,304,200円です。

また、支出額の主なものは、施設改良費 364,713,669円、企業債償還金 194,994,108円です。

収入額が支出額に不足する額 432,934,208円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 23,777,236円、過年度分損益勘定留保資金 409,156,972円で補てんしました。

(単位：円)

		平成29年度	平成28年度
収益的 収支	事業収益	1,587,828,347	1,584,214,817
	事業費用	1,479,329,779	1,493,890,211
	純利益	108,498,568	90,324,606
資本的 収支	収入	128,188,892	24,228,409
	支出	561,123,100	478,758,778
	不足額	432,934,208	454,530,369

(4) 老朽管更新事業

【事業の目的】

- 耐震性の向上を図り、給水を安定させる。
- 漏水を防止し、維持管理費の節減を図る。
- 安全で良質な水を供給する。

【事業の経緯と現況】

本事業は、計画的に老朽管の布設替工事を実施すると同時に他事業の水道管移設や切廻し依頼による布設替工事を実施するものです。平成29年度においては、1,068.10mの布設替工事を実施しました。